

# CIR Insights Vol. 1

1

[東北大学生・教職員のための教育データレポート]

## 2017年春号 学生生活編

東北大学生の学生生活は、この20年ほどでどのように変化してきたのでしょうか。学生生活調査のデータを使って、新1・2年生が生まれた頃（1997年）と現在（2015年）とを比較してみました。「サークル加入状況」や「現在の住居」、あるいは「授業以外での勉強時間」には大きな変化が見られません。他方で、悩みがある学生の割合が増えている（悩みの内容は似ている）にもかかわらず、「大学生生活の満足度」は大幅に高まっています。一見矛盾するような結果になったのは何故なのか？次号では学生像の変化に迫ります。

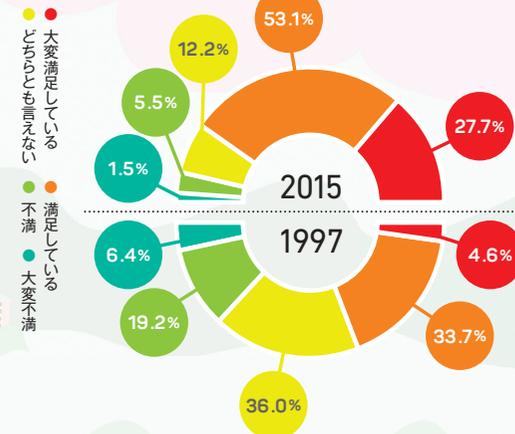
### CIRとは？

教育評価分析センターのこと。東北大学における教育・学習活動の体系的なデータ収集・分析を行い、本学の教育マネジメントを支援する組織です。

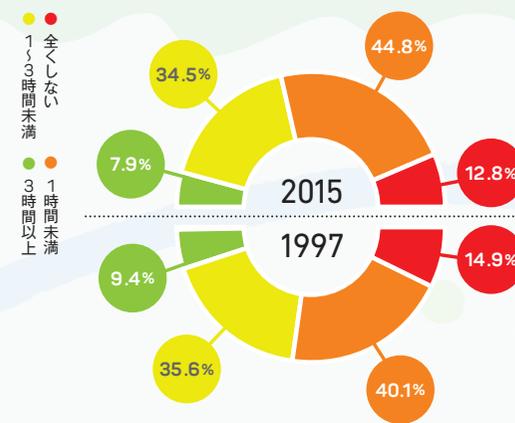
東北大学  
高度教養教育・学生支援機構  
教育評価分析センター

〒980-8576 仙台市青葉区川内41  
Tel: 022-795-4961(DI)  
Fax: 022-795-7669  
E-mail: cir@ihe.tohoku.ac.jp  
http://www.cir.ihe.tohoku.ac.jp

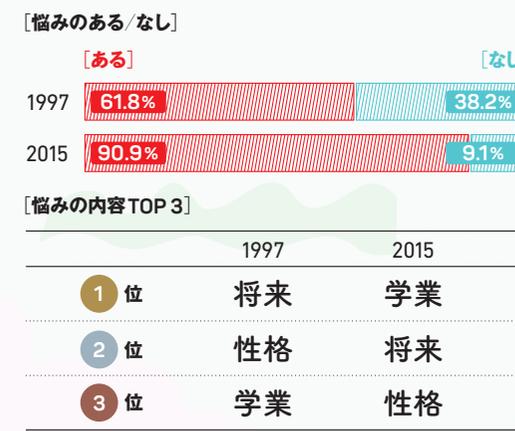
### 大学生生活の満足度



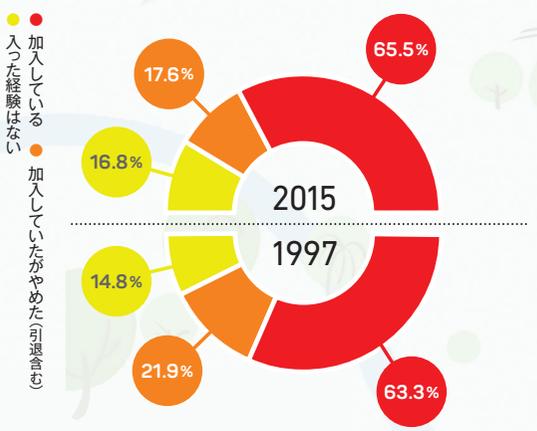
### 授業以外での勉強時間（1日平均）



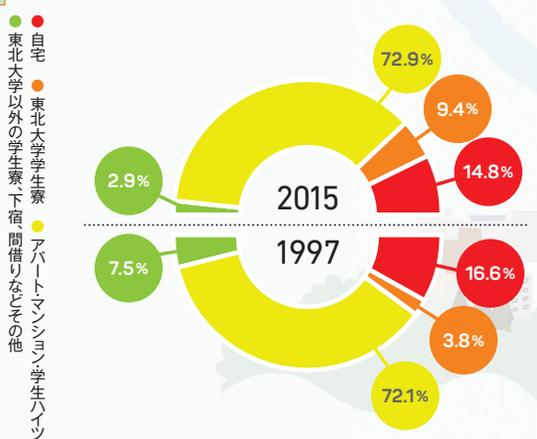
### 現在の悩み



### サークル加入状況



### 現在の住居





# CIRと コラボレーション しませんか？

CIRでは全学的な教育に関する調査分析の他に学内各所の委員会や部局との連携・協力による改善支援を行っています。

これまでCIRが蓄積してきた様々な教育関連データを用い、教育改善に向けた課題抽出、解決のための情報分析をお手伝いします。

ご興味をお持ちの部局、解決したい課題をお持ちの方がおられればお気軽にお問い合わせください。

## 例えば、こんなことができます [平成28年度の実績]

### ➡ 学務審議会 教務委員会

履修登録単位数の上限設定(CAP制)の議論に関連して、平成26年度卒業生の履修状況と成績について情報提供

### ➡ 理学研究科 教員

当該教員の担当授業について、成績と授業評価結果の関係を分析

### ➡ 高度教養教育・学生支援機構 教養教育改革WG

全学教育の現状及び成果、並びに機構授業実践調査と授業評価結果の関係について情報提供

## CIRが実施する調査のご紹介

CIRでは、過去に実施した調査報告書を配付しております。  
入手をご希望の方は下記のお問い合わせ先まで、ご連絡ください。  
[お問い合わせ]教育評価分析センター →→→ [cir@ihe.tohoku.ac.jp](mailto:cir@ihe.tohoku.ac.jp)



2015年  
3月  
実施

### 東北大学の 教育と学修成果に関する 調査報告書

東北大学の教育改善を図る取り組みの一環として平成24年度より調査開始。本学全体および各学部・研究科における学修成果がいかなる特徴を持ち、それがどのような背景に因るものであるかを中心に分析を実施。東北大学生の学修成果の現状を正確に把握し、将来を展望するための一素材としてご活用いただける内容となっています。

#### 目次

##### 第1部 調査結果全体に関する分析

1. 第2回東北大学の教育と学修成果に関する調査：調査概要と回答傾向
2. 東北大学で学ぶことの成果：学士課程卒業生による学修成果の認識
3. 学修成果の教育課程間比較

##### 第2部 各部局の注目した知見とその解釈

##### 第3部 資料 (調査結果の概要、基礎集計表、自由記述、調査票)

[既刊] 第1回東北大学の教育と学修成果に関する調査報告書 (2013年3月実施)



2016年  
1月  
実施

### 東北大学教員の 教育活動に関する 調査報告書

東北大学の教育改善を図る取り組みの一環として平成27年度より調査開始。本学教員がいかなる認識や方法の下で教育活動を展開し、どのような課題を抱えているかを明らかにすることで、本学の教育・学習活動の改善に活かすことを目的に実施。特に「時間外学修」と「アクティブラーニング」に焦点を当て現状を分析し、具体的な教育改善に向けた提言を含む内容となっています。

#### 目次

##### ● 「第1回東北大学教員の教育活動に関する調査」に基づく主な知見

##### 第1部 調査結果全体に関する分析

1. 調査概要と全項目の回答傾向
2. 授業時間外学修の認識と想定：45時間学修を前提とした授業設計
3. アクティブラーニングの取組状況：諸要因との関係

##### 第2部 各部局の結果に対する所見

##### 第3部 資料 (部局別集計表、自由記述、調査票)